

## ありとあぶらむし——なわやすし

「おじいさんが だいに して いる ばらの 元気が だんだん なくなつて きた。 どうしてだろう。」  
やすしが ばらの かぶを よく 見ると、そこには、 小さな あぶらむしが、 いっぱい あつまつて いました。

「この あぶらむしが ばらの しる を すうので、 元気が なくなつて きたんだな。」

ところが、 よく 見ると、 あぶらむしの そばに、 ありが います。

「なぜ、 ありが、 こんな ところに いるのかな。」  
やすしは、 学校から かえると、 いつも、 ばらの そばに すわりこむようになりました。



ありは、 みつが ほしく なると、 ひげで あぶらむしのおなかを こすります。 すると、 あぶらむしは、 みつを 出して くれます。

ありは、 また、 つぎの あぶらむしに、 「みつを くださいな。」



と、おなかを こすります。

ありは、あまい みつを もらう た  
めに、あぶらむしの そばに いたので  
す。

ありは、みつを もらった おかえしに、  
あぶらむしの ひっこしの 手つだいを  
して います。小さな あぶらむしを  
口に くわえて、おいしい しるの 出る 木へ つれて  
いくのでした。

やすしは、なかよく いきている あぶらむしや あり  
が ますます すきになりました。

それから、いろいろな こんちゆうに ついても、かん  
さつを つづけました。

大きく なった やすしは、あの うつ  
くしい「ぎふちよう」を 見つけました。  
また、いまから およそ 百年まえ、  
岐阜市の 金華山の ふもとに、とても  
りっぱな 「名和こんちゆうはくぶつか  
ん」を たてました。



内容項目 四―(七)

出典 岐阜県教育委員会 きょうどのどうとく「かっぱのおんがえし」

(昭和六十一年七月)